

聞きちゃってんしゃい! ふくつ便

Mちゃんのこと
立石 伸子 さん

東日本大震災以降「絆」という言葉が氾濫し、なんか安っぽく感じられて、美しい日本語の意味、漢字の重さを考えてしまう。そんな折り『絆 いま、生きるあなたへ』という本を友人が貸してくれた。著者は宗教哲学者の山折哲雄。名前を聞いただけで頭がクラクラしそうだったが、この本は分かりやすく学ぶことがいっぱいあった。

哲学者といえば小学校低学年の時を思い出す。ある集落で若い女性が自殺された。田舎のことなので学校でも話題になった。同じ集落のMちゃんが、

「あの人は哲学者やったもんね」という。初めて聞く言葉に私は、

「哲学者て何んする人?」と聞いた。

「徹夜で本を読む人のことタイ」という。

「それ違うっちゃん」と言ったが、

「カアチャンがそげー言いよったけん違うとらんよ」Mちゃんは言い張る。

それ以上会話は続かなかった。

その後、母たちの話を聞いていたら、女性は将来を約束していた男性が戦死されたことを悲観して、農薬での自殺だったらしい。それは

絆
ペンネーム 世話やきじじ さん

昨年3月11日東日本大震災が起きました。その1カ月後の4月15日原町連合寿会(老人会)の総会があり、義援金を会員にお願いしたところ、9万2327円のお金を送ることが出来ました。

この1年、テレビ報道に涙した会員の皆さんに、今年の総会で再度お願いをしたところ今度は8万5233円の義援金を送

ることができました。原町に住んで50年、思いやり、絆の強い町だと私は大好きです。福祉会活動を通じ、本当の人と人をつなぐ絆がいかに大切かを実感しています。心の温かい町に住むことが、80歳代後半に差し掛かる自分にとって、ありがたく、そして生きがいになっているものと感謝している毎日です。



市広報秘書課
(福間庁舎)
☎43・8113

おたより
寄せちゃってんしゃい
(お便りを送ってください)

自由投稿コーナー「聞きちゃってんしゃい!ふくつ便」では、皆さんからの自由な意見・要望・談話などを投稿・紹介しています。福津市をもっと住みよく、もっと楽しくするためには皆さんの声がとても重要です。皆さんのさまざまな話をお聞かせください。お待ちしております。※誌面の都合により、掲載できないことがあります。



戦時中のことだから昭和十九年から二十年終戦前の出来事で、私たちは小学校二年生か三年生の時である。あれから六十年以上経っているがいまでも忘れない。
Mちゃんとは中卒後は進路が違って疎遠になった。十数年後、彼女の情報を知ったのは、なんと二十代で自ら命を断ったということだった。同窓会には一度も顔を見せなかった彼女がどんな生活をしてたのか知る由もないが、なぜ! どうして! と驚きと共に胸が痛んだ。子どもとき、徹夜で本を読む人が哲学者タイ! と言ったときのMちゃんしか思い出せず、なんか農薬自殺した女性とMちゃんが重なってしまった。
若いときからの習慣で就寝前には必ず本を読むが、集中すると時間を忘れる。時々Mちゃんを思い出し、苦笑いしながらそつと本を閉じる。

聞きちゃってんしゃい! ふくつ便

点線に沿って切り抜き、必要事項を書いて、切手を貼って投稿してください。

POST CARD

フリガナ _____

■ 氏名 _____

■ 年齢 _____ 歳 ■ 性別 男 ・ 女

■ ペンネームまたはイニシャル _____

※記載がない場合は、実名での掲載とさせていただきます。

■ 住所 〒 _____

■ 電話 () _____

8 1 1 3 2 9 3

お手数ですが
50円切手をお貼りください

福津市役所広報秘書課
広報広聴係 行